

北東アジア地域青少年環境サミット2025

国際交流を通じて北東アジア地域の環境保全に取り組む人材を育成することを目指し、北東アジア地域の青少年（主に高校生）が集まり、環境問題に関する講演や活動発表、意見交換等を通じて相互の友好と理解を促進するとともに、持続可能な社会づくりに向けてグローバルな視点から今後取り組むべき環境保全活動について議論した。

1 実施日時

2025年8月6日（水） 13：00～16：00

8月7日（木） 13：00～16：30

2 実施方法

オンライン形式（Zoom）

3 主催等

- ・ 主催：富山県
- ・ 主管：公益財団法人環日本海環境協力センター

4 参加者

北東アジア地域の中高生24名（3か国5自治体）

- ・ 日本：2名（富山県2名）
- ・ 中国：6名（遼寧省6名）
- ・ ロシア：16名（アルタイ地方4名、ハバロフスク地方6名、トムスク州6名）

5 テーマ

環境保全活動で築く持続可能な未来

6 内容

※ [配布資料一式はこちら](#)

※ ダイジェスト動画はこちら（[1日目](#)・[2日目](#)）

(1) 開会挨拶（ビデオメッセージ）

富山県生活環境文化部次長 中島 浩薫



(2) 文化交流

それぞれの地域の文化や風土を発表し、相互理解を深めた。

自治体名	紹介内容概要
遼寧省 (中)	 遼寧省瀋陽市は歴史・文化と豊かな自然が融合した都市で、交通と産業の拠点でありながら環境保護にも積極的に取り組んでいることを紹介
アルタイ地方 (露)	 アルタイ地方は、自然が豊かで美しい景観から「シベリアのスイス」と呼ばれ、豊かな森林や多様な野生生物について紹介

(3) 活動発表

各自治体において参加生徒が実施している環境保全活動の内容を発表するとともに、意見交換を行った。

自治体名	活動概要
富山県 (日) ※富山第一高校	 富山県の豊かな自然や食文化を紹介するとともに、学校でのリサイクル・清掃活動や震災ボランティアなど環境保全の取り組みを紹介

遼寧省 (中)	 瀋陽第120中学校の緑豊かなキャンパスで実施しているごみの分別に関する講義や環境保護をテーマにしたクラス会など、多彩な環境保護実践活動について紹介
ハバロフスク地方 (露)	 街をより緑豊かな場所とするために取り組んでいる植樹や花植え、アップサイクルの取組み、清掃活動などの環境教育や環境保護活動を紹介
トムスク州 (露)	 『国境なき探検』プロジェクトの一環として若者たちが特別自然保護区で科学や環境についての研究に参加し、土壌と水質の現地調査を行った結果を具体的に紹介

(4) 環境クイズ

環境保全に関するクイズを通して、楽しみながら環境保全について学ぶとともに、参加者同士の交流を図った。



(5) 自由交流

少人数のグループに分かれて、ゲーム形式の自己紹介、プログラム全体を通じた質疑応答、意見交換、異文化交流などの自由交流を行った。

Two Truths and a Lie

◆ Preparation: Make three sentences about yourself. Two of them are true, and another is a lie

◆ How to play:

1. Tell the three sentences twice.

<Example> "Hi. I'm (nickname or real name).
No.1: I love spicy food. No.2: I play the piano. No.3: My favorite movie is Harry Potter."
2-1. Choose one person to guess which one is a false info. about you.
"Which one is a lie? XXX, what do you think?"
OR 2-2. Ask every member to guess which one is a false info. about you, and show the answer with fingers.
"Now, everybody, which is a lie about me? Show me your answer with fingers."
3. Tell the answer, give one point to the person who found the correct answer, and choose the next person.
"The lie is No. 2. I can't play the piano. XXX, you've got one point! Now, YYY, it's your turn."
4. After everyone took their turns, count how many points they've got to find the winner.



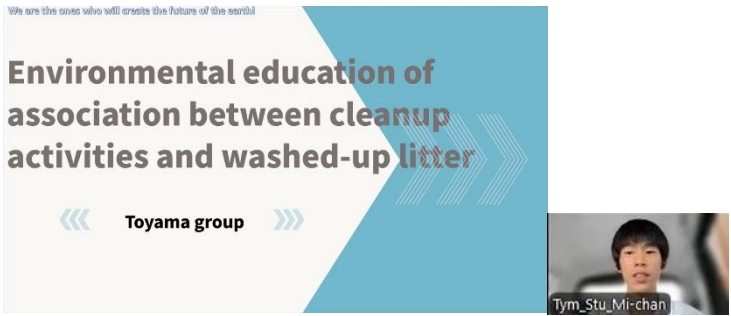
(6) 自治体取組紹介（講演）

自治体から環境教育（ごみの分別、地球温暖化対策、自然保護活動等）に関する特徴的な取組を紹介するとともに、各取組に関する意見交換を行った。

自治体名	活動概要
富山県（日）	Toyama volunteer club for reduction of washed-up litter • We established "Toyama volunteer club for reduction of washed-up litter" with companies, volunteer groups, and so on in July 2022. • Members of this club cleaning along the coast, in the town, and in the neighborhood, as well as efforts to spread awareness about washed-up litter among people close to us. • Toyama prefecture promotes their activities and transmits information. 循環経済への移行を進めるため実施しているリサイクルのマッチングサイトやとやまエコ・ストア制度の取組みや、漂着ごみ削減に向けて実施しているボランティアと連携した清掃・啓発活動を紹介 The Environmental Subcommittee of NEAR ◆ To promote environmental conservation, Discuss on current situation and issues in environmental protection and future improvement plan. Individual Projects (From April 2025 to March 2026) 1 Youth environmental summit in the Northeast Asian region 2 Survey and educational activity to reduce washed-up litter at source 3 Environmental poster exhibition in Northeast Asia 4 Survey of coastal organisms 5 Contest of Photos "Eco-selfie – selfie with utility" 6 Biological seasonal survey in Northeast Asia NEAR環境分科委員会で日・中・韓・モンゴル・ロシアの自治体と連携し実施している北東アジア地域における環境保全の取組み（青少年環境サミット、漂着ごみ調査・啓発、環境ポスター展、海岸生物調査、フォトコンテスト、生物季節調査）を紹介
トムスク州（露）	COLLEGE STUDENTS ENGAGE IN ENVIRONMENTAL ACTIVITIES IN 'LARINSKIY RESERVE' トムスク州の特別保護区における、パトロールや標識の設置など自然遺産の保護活動や、自然体験、図画・演劇コンクール等の環境教育活動の展開により、若者の自然保護意識の醸成が図られていることを紹介

(7) ワークショップ

各グループの環境保全活動や自治体の環境の取組みを踏まえて、この北東アジア地域で実施したらよい取組みについて、グループ内で意見交換し、その結果（提案内容）を発表した。

自治体	提案タイトル及びその概要
富山県（日）	 「清掃活動と漂着ごみを関連付けた環境教育」 北東アジアの自然を共通財産として、市民一人ひとりの理解と協力を得ることが重要。海岸や市街地での清掃活動と漂着ごみ削減を結び付け、視覚的手段（ポスター・写真・SNS）を活用した環境教育により、環境保全の重要性を広く実感させ、実践につなげることを提案。
遼寧省（中）	 「今すぐ行動しよう：地球温暖化対策のための若者による取組み」 地球温暖化による異常気象や生態系悪化の問題に対し、高校生が学校や地域で行動を起こすことを提案。校内ではポスター・写真コンテストやワークショップ等を開催し、学外では植樹活動や自然保護区への校外学習を行うことで、環境意識向上を図り、温室効果ガスの削減につなげる。小さな個人の行動でも、協力することで大きな変化を生み出し、持続可能な社会づくりに貢献できる。

アルタイ地方 (露)	 「廃棄物をエコ活動に」 廃棄物の削減のため、無駄のない消費やリサイクルの重要性の啓発を行う提案。具体的には、子供が主体的に取り組むワークショップ、ゲーム（クイズ）、動画制作等のほか、リサイクルの重要性を伝える展示会の開催によりリサイクル教育を行い、家庭でのごみ削減につなげる。
ハバロフスク地方 (露)	 「都市緑化」 都市のコンクリート化や大気汚染・騒音問題に対し、木々や低木、花を植える緑化活動を提案。住民、教師、生徒、保護者が参加し、自宅の庭や校庭、公園で季節ごとに植栽する。これにより生活環境の改善が見込まれるほか、生物多様性保全や持続可能な都市環境づくりに貢献できる。
トムスク州 (露)	 「ファミリー・エコツアーリスト・ハイキング」 家族向けエコツーリズムとして自然体験型ハイキングを提案。景観を楽しむトレイルウォーク、サバイバルスキル訓練、生態学ワークショップ、ゲーム・コンテストを通じ、安全知識、環境意識を育成。地域の清掃活動も組み込むことで、家族全員で楽しみながら学び、自然保護と持続可能な行動の重要性を体験できる。

【提案内容一覧表】

自治体	タイトル	課題	目的	活動内容	成果・特徴
富山県（日）	清掃活動と漂着ごみを関連付けた環境教育	漂着ごみ問題	清掃活動と環境教育を結び付け、意識向上	海岸や市街地での清掃活動、ポスター・写真・SNSによる視覚的教育	楽しみながら学び、地域や各国の人々の環境意識を高める実践型教育モデル
遼寧省（中）	今すぐ行動しよう：地球温暖化対策のための若者による取り組み	地球温暖化による異常気象や生態系悪化	高校生が行動し環境意識を高める	校内でポスターコンテスト・環境ワークショップ・クラス会議、校外で植樹や自然保護区学習	個人の小さな行動を集めて大きな変化を生み、持続可能な社会づくりに貢献
アルタイ地方（露）	廃棄物をエコ活動に	廃棄物問題	リサイクル意識の普及と行動促進	子供・親参加の清掃・ワークショップ・ゲーム・SNSや動画での啓発、アップサイクル品制作や展示会	家庭でのごみ削減に繋がり、持続可能な行動習慣を育成
ハバロフスク地方（露）	都市の緑化	都市のコンクリート化・大気汚染・騒音問題	都市の緑化による環境改善と健康向上	庭や校庭、公園に木・低木・花を植え、季節ごとに手入れ	空気浄化、土壌保護、生物多様性確保、景観向上、住民の生活の質向上
トムスク州（露）	ファミリー・エコツーリスト・ハイキング	（家族で自然に触れる機会の不足）	自然体験を通じて環境意識と生活スキル向上	トレイルウォーク、サバイバル訓練、生態学ワークショップ、ゲーム・清掃活動	安全知識・環境意識を育み、家族で楽しむ持続可能な体験

(8) 総括

参加者代表（富山県生徒）が環境サミットの内容やワークショップでの提案内容を踏まえた「サマリー」を発表した。

北東アジア地域青少年環境サミット2025 サマリー

私たちは日本、中国、ロシアの3か国5自治体の代表として2025年北東アジア地域青少年環境サミットに参加しました。

「環境保全活動で築く持続可能な未来」をテーマに、ごみの分別・資源物回収、地球温暖化対策、自然保護活動などについて共有し、持続可能な未来の構築に向けて意見交換を行いました。

また、環境クイズや自由交流を通じて、北東アジア地域の環境を保全する仲間として、互いの絆を深めました。

私たちは、持続可能な未来の実現には、一人ひとりの行動が大きな力になることを学びました。また、国や文化の違いを越えた協力と交流が、未来を変える原動力になると確信しました。

環境問題を改善していくためには、国や地域の境界を越えて、今回みんなで意見交換して、互いが以下の環境分野への取組みや環境保全活動を実施する必要があると考えました。

- ・ プラスチックが海洋の生態系に与える影響が心配されており、北東アジア地域においても共通の課題といえます。プラスチックの海洋への流出を抑制するためには、それぞれの国の仕組みに応じて適切にプラスチックごみの発生抑制と回収、リサイクルや清掃活動の実施が必要です。
- ・ 気候変動は地球規模の喫緊の課題であり、一人ひとりが積極的に取り組む必要があります。取組を進めるためには、地域や学校と連携した環境教育や普及啓発が重要であり、北東アジア地域で共通する課題についてのデジタル技術などを活用した普及啓発資材や啓発プログラムがあるとよいと考えます。
- ・ 貴重な自然を保護するためにも、それぞれの国の仕組みに応じて適切に措置を講じる必要があるが、そのためには、保護地域の価値や自然環境の重要性が積極的に発信される必要があります。ポスターや写真等で保護地域のすばらしさを表現するとともに、地域の特性を生かした緑化やエコツーリズムなど、自然とふれあいながら学ぶ取組を北東アジア地域で広く共有できるとよいと考えます。

環境問題は、今行動を起こさなければ解決できません。みなさん、今後も環境保全活動に積極的に関わり、自分たちの地域で、そして世界で変化を起こしていきましょう。

2025年8月7日

北東アジア地域青少年環境サミット参加者一同

(9) 閉会挨拶（ビデオメッセージ）

公益財団法人環日本海環境協力センター 専務理事 柳田 貴広

